

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月20日

【評価実施概要】

事業所番号	3070104538
法人名	医療法人 潤生会
事業所名	たかまつ グループホーム
所在地	和歌山県和歌山市西高松1丁目5-36 (電話) 073-428-0617

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年1月21日	評価確定日	平成20年3月14日

【情報提供票より】(平成19年12月9日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤	8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(12月9日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1		名	要介護2	1	名	
要介護3	1	名	要介護4	4	名	
要介護5	3	名	要支援2		名	
年齢	平均	85歳	最低	73歳	最高	98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 潤生会 島本歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

和歌山市の幹線道路から少し内に入った静かな所に位置しており医療法人が運営するグループホームで、母体の医院やデイケアと併設されています。“一人ひとりに愛情をこめて”をモットーに日々、自分自身、家族だったらどうするかを問いながらケアに取り組まれています。入居者本位のケアについても職員全員で話し合いながら日々のサービスに活かしています。経験豊富な人生の先輩として尊重し、言葉かけや態度には温かみ、ゆとりを持って支援されています。また、医療法人の特性を活かし、ホームには看護師が配置されています。医師や訪問看護の看護師とも連携が取られており、健康管理や医療面が充実している事で入居者、家族にとって安心した体制となっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を踏まえ、職員間で話し合いながら改善に取り組んでいます。入居者が一人になったり、自由に過ごせる居場所の確保が課題でしたがスタッフルームを多目的ホールに変更し、有意義に利用されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については全職員に自己評価票を配布し、会議で話し合っており上げられています。評価を通して日々のケアの気付きにもつながっています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一度の会議ではホームでの取り組みや、行事等を報告しており、出席者や家族の方からはアドバイスや立場の違いからの形式的でなく真摯な意見を聞くことができる良い機会としています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	敬老会の際、家族会を昨年初めて開催され、家族の意見を得る良い機会としています。その中で得た意見については、職員で話し合い、改善に向けて取り組まれています。家族がホームに来られた際や電話等でも意見を言える環境づくりに努めています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩のコースに幼稚園があり、訪問して遊んでいる園児の様子を見たり、近くのスーパーの利用や散歩時のあいさつを通して、地域の方と顔馴染みになるよう努めています。法人の医院が自治会に入っており、地域の行事案内等情報収集にも努めています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりに愛情をこめて」を基に作られたグループホーム独自の理念が掲げられている。	○	地域密着型サービスのホームとして、住み慣れた地域で暮していくことや、役割について職員で話し合い、理念に盛り込まれる事が期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時や会議の場、日々のケアの中で自分自身や家族だったらどう思うかを職員と話し、理念に基づいたケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩のコースに幼稚園があり、訪問して遊んでいる園児の様子を見たり、近くのスーパーの利用や散歩時のあいさつを通して、地域の方と顔馴染みになるれるよう努めている。今後、自治会の入会を検討されている。	○	自治会や運営推進会議を通して、地域の情報を収集をすることでより関わりが深まることが期待される。。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を踏まえ、改善に取り組み、スタッフルームを多目的ルームに変えたり、介護記録のフォーマットを変更したりしている。今回の自己評価については全職員に自己評価票を配布し、会議で話し合っつくりあげている。日々のケアの気づきにもつながっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の会議ではホームでの取り組みや、行事等を報告しており、出席者や家族の方からはアドバイスや立場の違いからの形式的でなく真摯な意見を聞くことができる良い機会としている。		

たかまつグループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域会議や実地指導などを通して市の担当者とながりをもち、意見をもとにサービスの質の向上を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ホームに来られた際や電話等で日々の暮らしぶりを報告している。また、毎月、個別に行事案内や金銭管理の報告、メッセージを添えたお便りを送付し、毎日の生活状況をわかりやすく短文で記録したのも一緒に送付している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>敬老会の際、家族会を昨年初めて開催され、家族の意見を得る良い機会としている。その中で得た意見については、職員で話し合い、改善に向けて取り組まれている。今後、家族会を継続したいと考えられている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの職員でのケアが実践出来ている。新しく入った職員についてはなるべく日勤帯を多くし、入居者と一緒に過ごす時間を多くとるように配慮されている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に積極的に参加するようにしており、受講後は会議で内容報告をして、レジュメを回覧し、職員間で共有している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に加入しており、勉強会や会議等で意見や情報交換をしながら交流している。また、職員の交換研修の実施を通して、気付きや反省から自信につながっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族とよく話し合い理解を得るようにしている。法人のデイケアを利用されていた方の入居もある。入居時は馴染めるまで職員が付き添い、家族に相談しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で人生経験の豊富な入居者から教わることも多くあり、特技や思い出話をする時間やテレビを観ながら一緒に笑いあう時間を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを把握するため、センター方式によりアセスメントを職員全員が行い、会議で話し合いながら対応について検討し、共有している。「利用者本位のケアって？」のレジュメを基に入居者一人ひとりの意向の把握にも努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式等のアセスメントの活用で、入居者の思いを引き出し、入居者の希望や家族の意見を取り入れたケアプランを作成している。カンファレンスにて職員間での意見を出し合い、計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に6ヶ月の1回の見直しとなっている。毎月のケアカンファレンスで入居者全員について検討されている。また、状況変化の際にはその都度見直されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買物や通院介助など本人、家族の状況に応じて対応されている。併設のデイケアでのレクレーションへの参加もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の馴染みのかかりつけ医との継続も可能である。また、母体の医院と併設されており、24時間対応可能でホームに看護師も配置され、訪問看護師との連携もとれており、安心した体制が取られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について入居時に話しをして、同意を得ている。また、その都度、家族、医師と話し合い、職員間で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩としての言葉遣いや態度に配慮し、家庭的なあたたかさを損なわないように心掛けている。個人の情報や記録は慎重に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝の起床や就寝は時間の決まりはなく、一人ひとりのペースに合わせて支援がなされている。		

たかまつグループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望を聞きながら献立を立てて、毎日買物に行かれているが、週に1回は入居者と一緒にスーパーへ買物へ行っている。食材の皮むき等食事の下ごしらえに出来るだけ参加してもらい、食後にはお盆のふき取り等をお願いしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能であり、午前中から入浴を行っている。本人の体調や希望に応じて入浴していただけるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、たたみ、食事の準備、後片付けなど役割を持ってもらえるように働き掛けている。また、カラオケなどの趣味や行事時の飾りつけ、折り紙などの楽しみ事やドライブなど気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	医院への通院やデイケアへの参加、カラオケの利用など支援している。	○	外出支援を目標にしており、現在出来るだけ取り組まれている。今後も、戸外へ出る事を積極的に支援し、少しの時間でも日常的に散歩する事が期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の外扉については、施錠していないが、内扉については、危機管理上、家族の希望もあり施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、防災訓練を実施している。地域の民生委員にも参加していただき、協力を得る働き掛けを行なっている。		

たかまつグループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の記録がされており、嚥下状態に応じて、きざみ、ミキサー、とろみ食など支援している。栄養バランスについては法人の栄養士のチェックを受け、アドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節感あふれる花が活けられており、1階にあるリビングは限られたスペースの中でスタッフルームだった部屋を多目的スペースとして活用するなど、くつろぎの場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた籐の椅子、布団等が持ち込まれており、写真や小物で工夫し、一人ひとりに合った居室づくりがなされている。		